

リケンテクノス株式会社

2023年3月期 第2四半期
決算・経営概況説明会

2022年11月16日



RIKENTECHNOS



目次

決算概要

セグメント別概況

中長期的取り組み



1. 決算概要

決算概要

セグメント別概況

中長期的取り組み

2023年3月期上期 連結業績サマリー

| 1.決算概要

(単位：百万円)

	2022年3月期 上期実績	2023年3月期 上期実績	前年同期比	増減率
売上高	50,965	59,527	+8,562	+16.8%
売上総利益	9,064	9,870	+806	+8.9%
営業利益	3,076	3,498	+422	+13.7%
経常利益	3,307	4,040	+733	+22.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,137	2,377	+240	+11.2%
1株当り四半期純利益	33.90	37.64	+3.74	+11.0%
R O S (%)	6.0	5.9	▲0.1	-
ナフサ価格 (円/kl)	50,600	83,750	33,150	+65.5%
平均為替レート(円/USD)	107.76	123.18	15.42	+14.3%

- 半導体不足による自動車市場落込み、上海ロックダウンの影響、インドネシア国でのインフラ工事の遅れもあるも、原材料価格上昇分の製品価格への転嫁及び円安効果もあり増収・増益
- 上期の売上高は**過去最高**、各段階利益も**過去最高益**

地域別売上高推移

| 1.決算概要

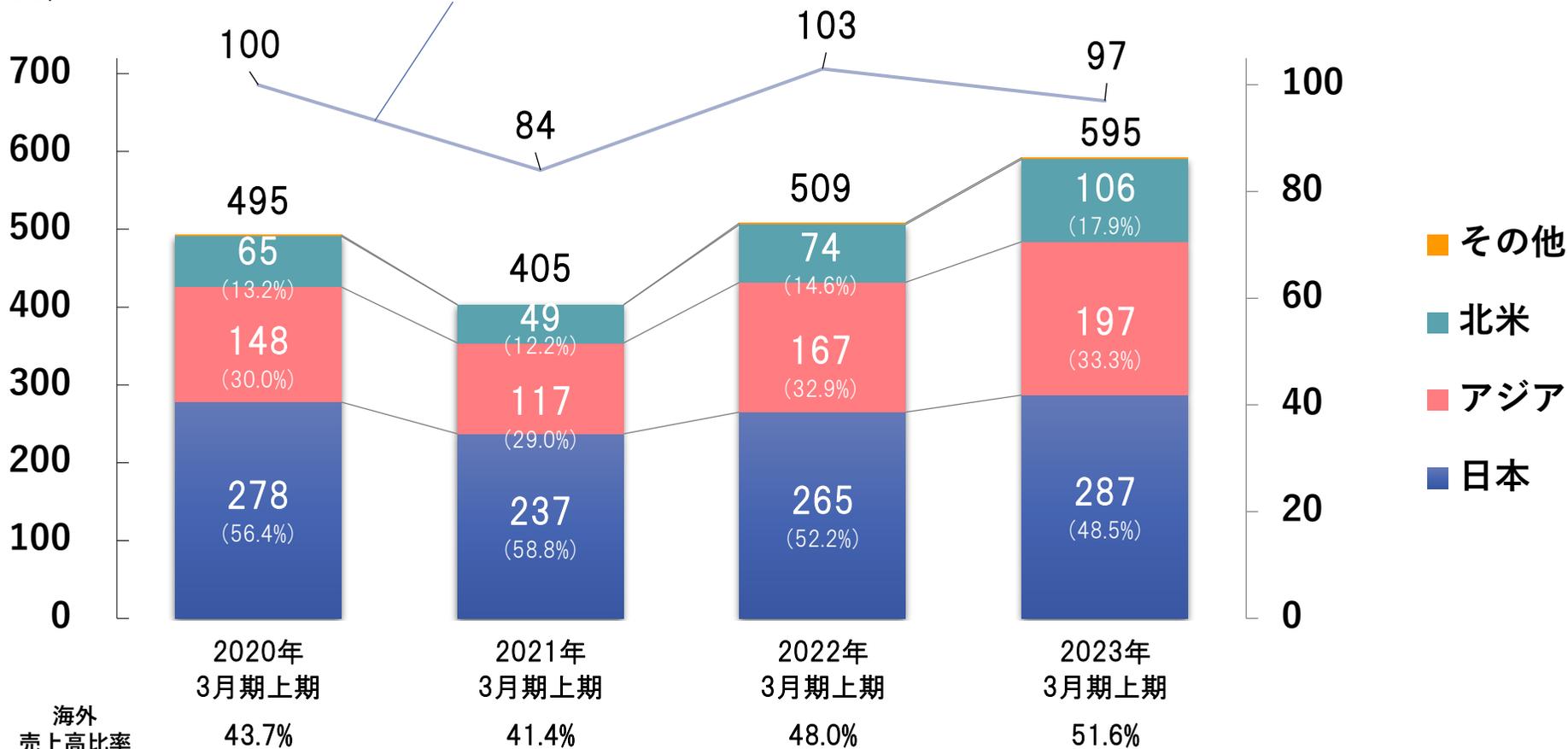
2023年3月期上期 売上高

595億円

前年同期比 85億円増 (16.8%増)

(億円)

2020年3月期上期の数量を100とした際の売上数量推移



➤ 海外売上高比率は中期経営計画目標である50%超えを達成

セグメント別売上高推移

| 1.決算概要

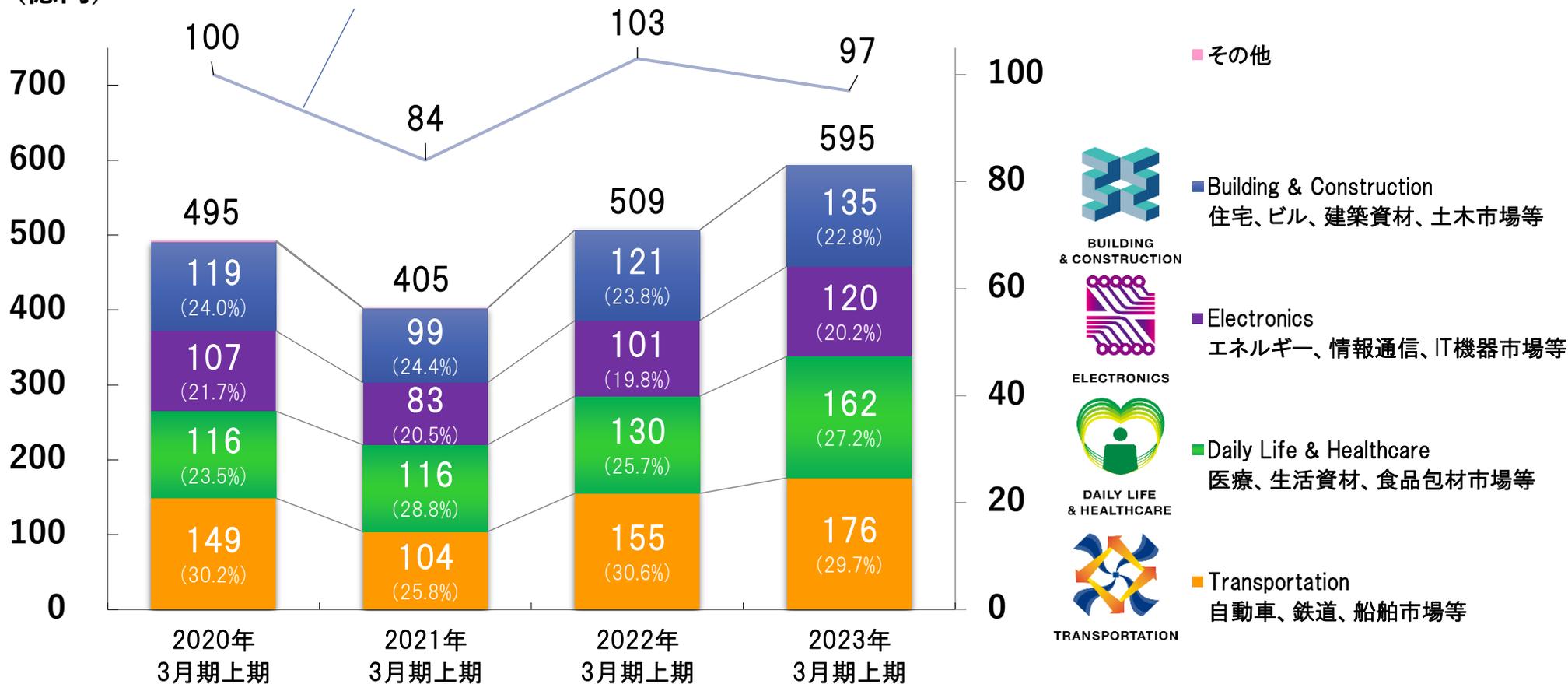
2023年3月期上期 売上高

595億円

前年同期比 **85億円増 (16.8%増)**

(億円)

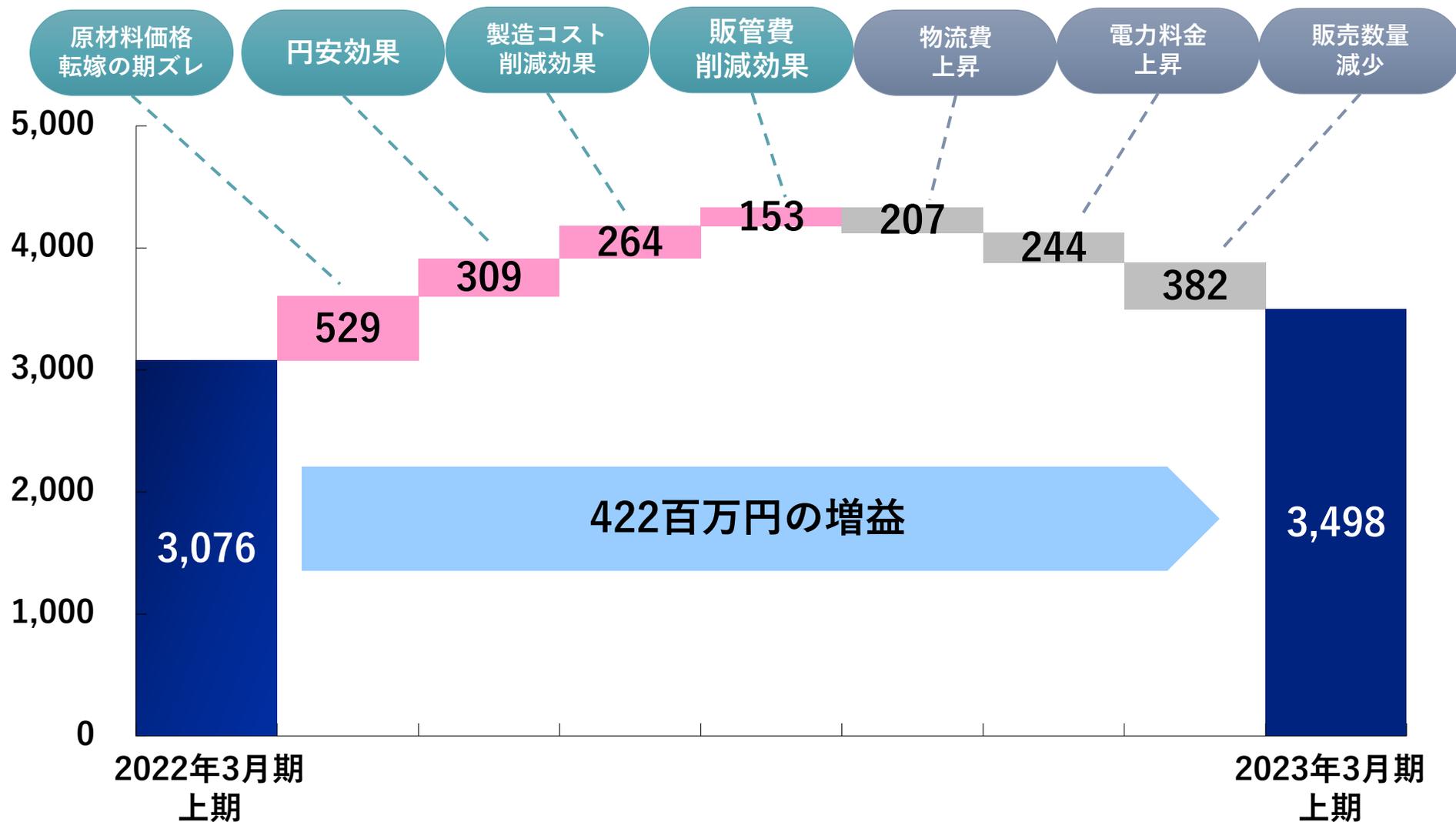
2020年3月期上期の数量を100とした際の売上数量推移



営業利益 前期比増減要因分析

| 1. 決算概要

(単位：百万円)



連結貸借対照表

1. 決算概要

(単位：百万円)

	2022年 3月末	2022年 9月末	増減		2022年 3月末	2022年 9月末	増減
流動資産	65,118	73,522	8,404	負債	37,192	42,497	5,305
現金及び預金	20,702	23,576	2,874	流動負債	31,409	36,444	5,035
売上債権	26,344	28,126	1,782	固定負債	5,783	6,053	270
棚卸資産	17,404	21,009	3,605	純資産	65,448	69,767	4,319
その他	668	810	142	資本金	8,514	8,514	0
固定資産	37,522	38,742	1,220	資本剰余金	6,597	6,597	0
有形固定資産	25,136	27,332	2,196	利益剰余金	38,200	39,861	1,661
無形固定資産	2,106	2,239	133	その他	4,449	5,869	1,420
投資その他の資産	10,279	9,170	▲1,109	非支配株主持分	7,686	8,924	1,238
資産合計	102,641	112,265	9,624	負債純資産合計	102,641	112,265	9,624

- 営業CF増加により現預金が増加
- 原料価格高騰の影響により売上債権、棚卸資産、仕入債務等が増加
- 保有株式の株価下落により投資その他の資産が減少

キャッシュ・フロー計算書

| 1.決算概要

(単位：百万円)

	2022年3月期 上期	2023年3月期 上期	増減
a.営業活動によるキャッシュ・フロー	1,915	4,491	2,576
b.投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,072	▲1,685	▲613
有形固定資産の取得	▲1,161	▲1,663	▲502
無形固定資産の取得	▲121	▲83	38
その他	211	60	▲151
c.フリー・キャッシュ・フロー (a+b)	843	2,805	1,962
d.財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,532	▲712	820
e.その他	247	780	533
現金及び現金同等物の増減額 (c+d+e)	▲441	2,873	3,314
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,639	23,551	2,912

▶ 投資を大きく上回る営業CFの創出により、現預金は増加

業績予想

| 1.決算概要

(単位：百万円)

	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 期初予想	2023年 3月期 修正業績予想	従来予想比		前期比	
				差額	伸び率	差額	伸び率
売上高	109,923	125,000	125,000	0	0.0%	15,077	13.7%
営業利益	6,292	6,500	7,100	600	9.2%	808	12.8%
経常利益	6,889	6,500	7,600	1,100	16.9%	711	10.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,941	3,300	4,000	700	21.2%	59	1.5%
1株当たり当期純利益	62.47	52.26	63.28	11.02	21.1%	0.81	1.3%
ROS(%)	5.7	5.2	5.7	0.5	-	0.0	-
ROE(%)	7.1	5.6	6.8	1.2	-	▲0.3	-
ナフサ価格(円/kl)	56,625	82,000	82,000	0	-	25,375	-
平均為替レート (円/USD)	109.86	117.00	132.40	15.40	-	22.54	-

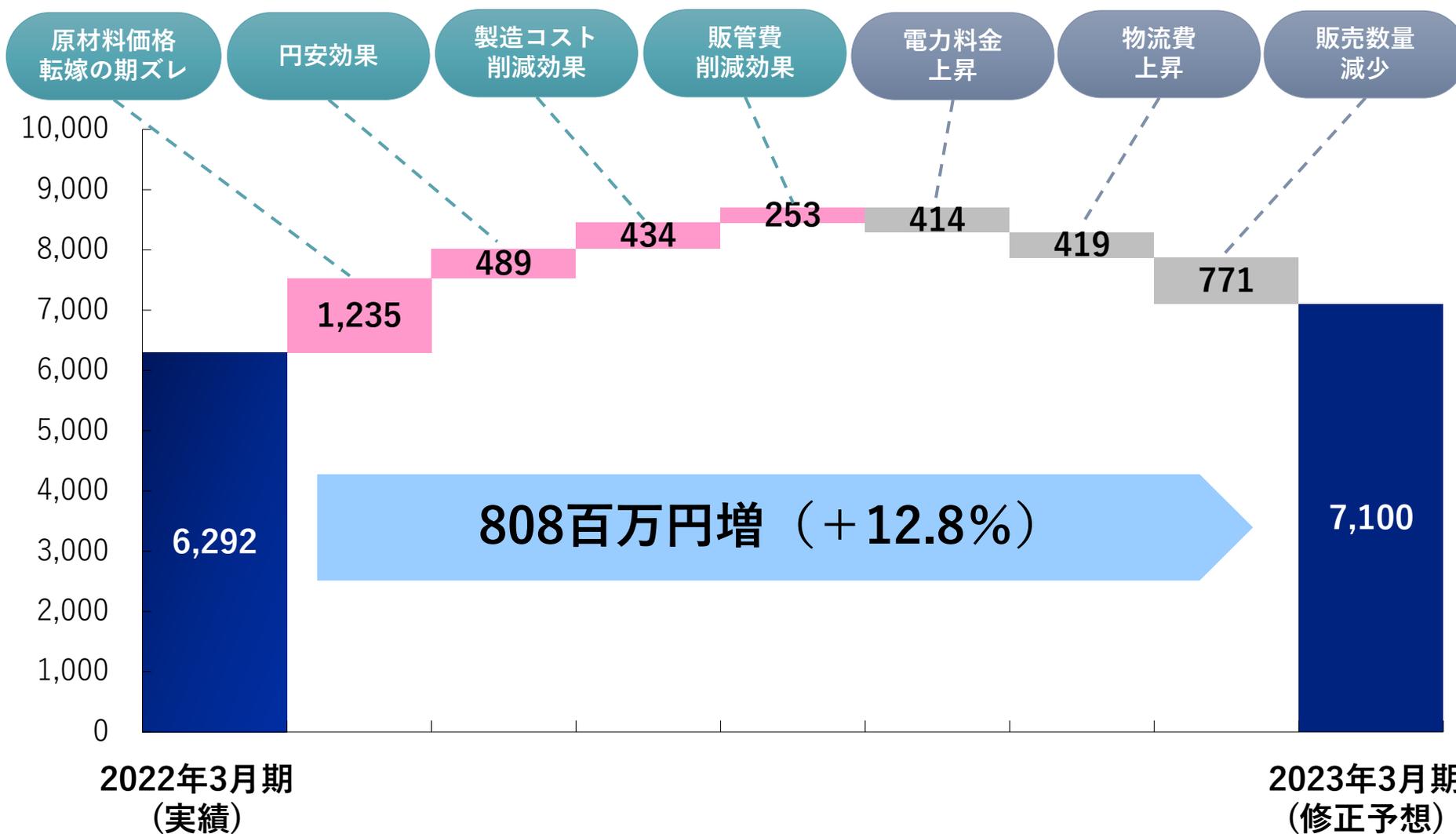
➤ 売上高は**過去最高**、各段階利益も**過去最高益**を予想

➤ 米国経済の減速及び電力料金の上昇もあり、下期の利益の伸びは限定的

2023年3月期(予想)営業利益 増減要因分析

| 1. 決算概要

(単位：百万円)





2. セグメント別概況

決算概要

セグメント別概況

中長期的取り組み



Transportation

トランスポーターション



ワイヤーハーネス



自動車用成型部材

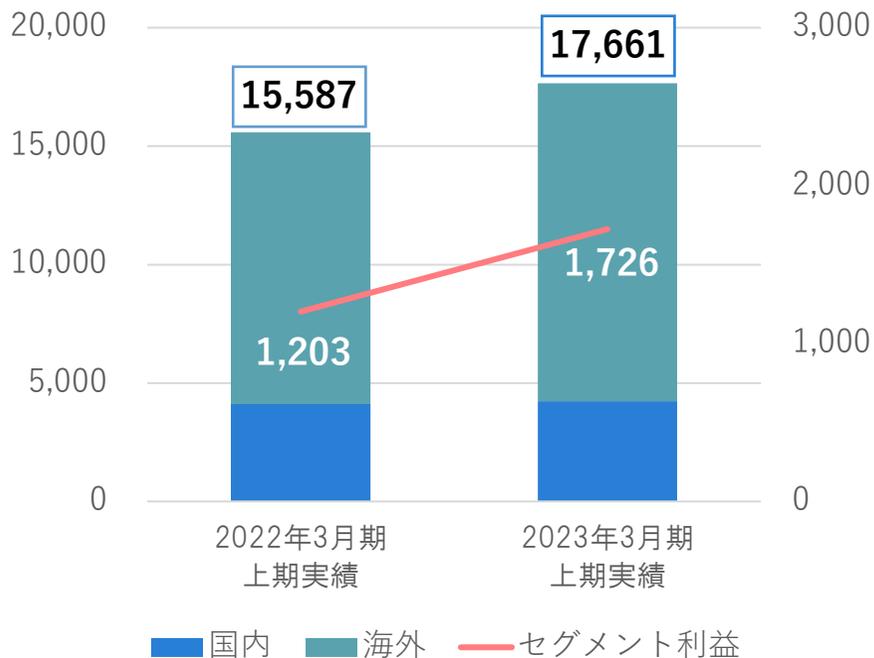
Transportation



2023年3月期
上期実績

2,074百万円増収 (+13.3%)
522百万円増益 (+43.4%)

(単位：百万円)



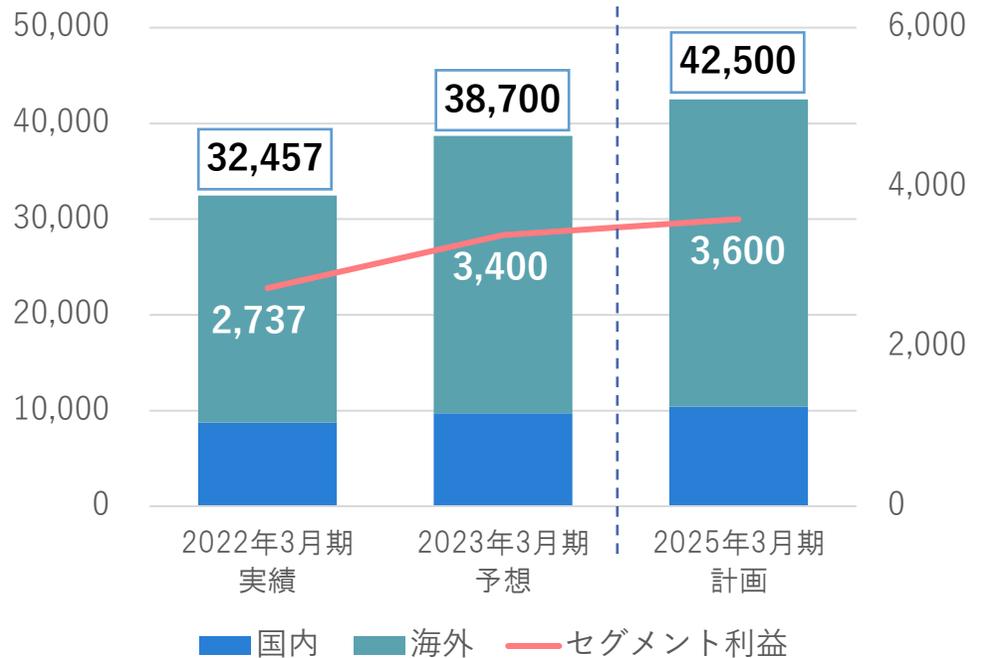
- 国内では、自動車生産は横ばいだが、原材料価格高騰に伴う製品価格への転嫁が進み増収
- 海外では、半導体不足や上海ロックダウン等による自動車減産の影響は受けたものの、拡販により増収
- セグメント利益は、国内・海外での販売の増加により増益

2.セグメント別概況

2023年3月期
通期予想

6,243百万円増収 (+19.2%)
663百万円増益 (+24.2%)

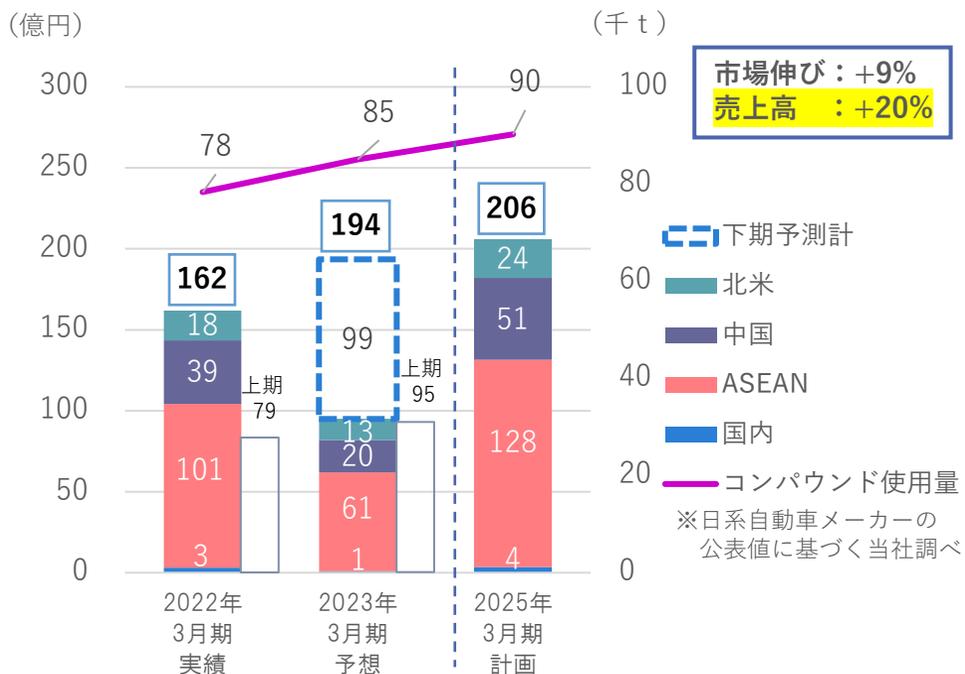
(単位：百万円)



- 国内では、シール部品や機能部品の拡販により増収
- 海外では、WHの市況の回復とシール部品の拡販により増収
- セグメント利益は、国内・海外での販売の増加により増益

重点分野① ワイヤハーネス

日系W/Hメーカー地域別コンパウンド使用量と当社W/H向けコンパウンド売上高



2023年3月期 上期実績

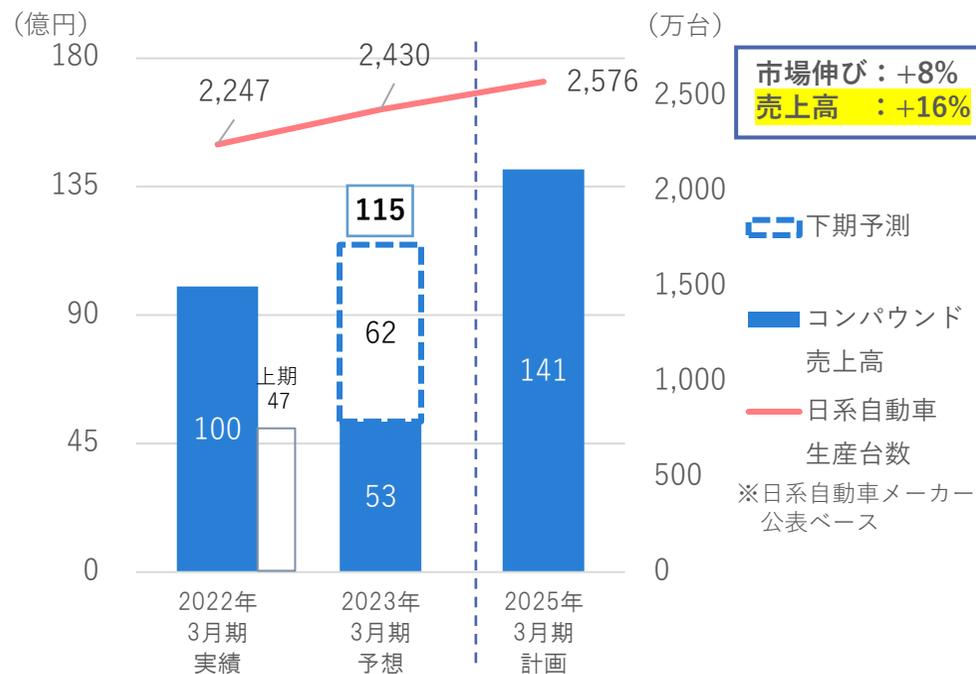
- 上海ロックダウンや半導体の影響を受けたものの、インド向け耐熱薄肉WHコンパウンド及び中国での非日系WH用コンパウンドの拡販が進捗

2023年3月期 下期施策

- 日系顧客の確実な取込み(拡大するASEAN・インド向け)
- 薄肉電線向け材料の拡販
- コスト競争力のある材料の市場投入
- 非日系顧客への拡販

重点分野② 自動車用成型部材

日系自動車メーカー生産台数と自動車成型部材向けコンパウンド売上高



2023年3月期 上期実績

- 国内では、シール部材、外装部品・ゴム代替等の機能部材の拡販
- 海外では、タイ国と中国でのシール部材向け材料の拡販

2023年3月期 下期施策

- モール・シール部材の拡販(日系大手顧客での採用拡大と海外展開)
- 機能部材の拡販、素材転換・ゴム代替の推進と海外展開



Daily Life & Healthcare

デイリーライフ&ヘルスケア



医療用 (PVC)



ゴム代替



環境素材

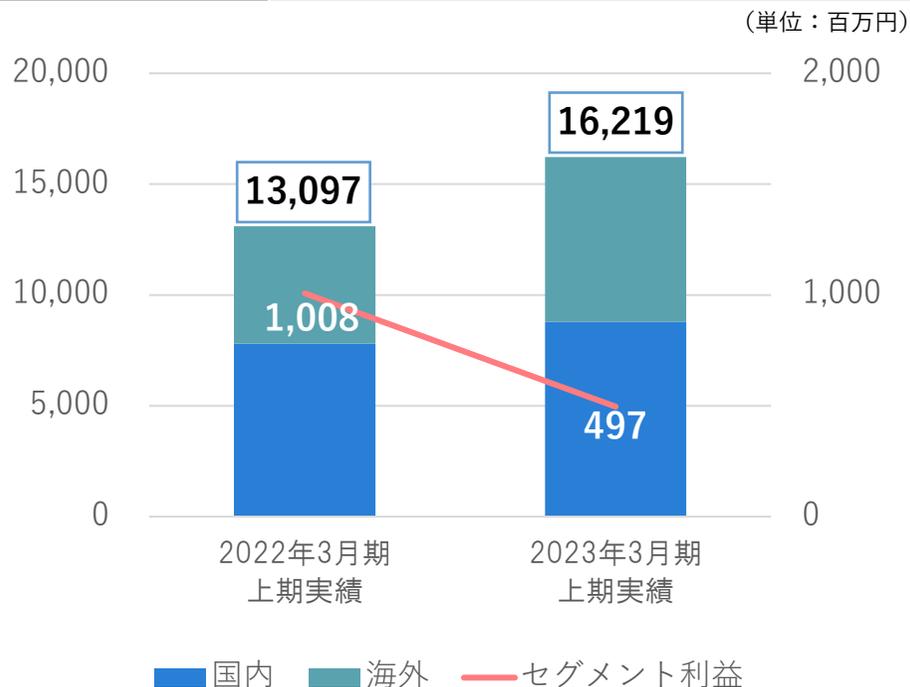
Daily Life & Healthcare



| 2.セグメント別概況

2023年3月期
上期実績

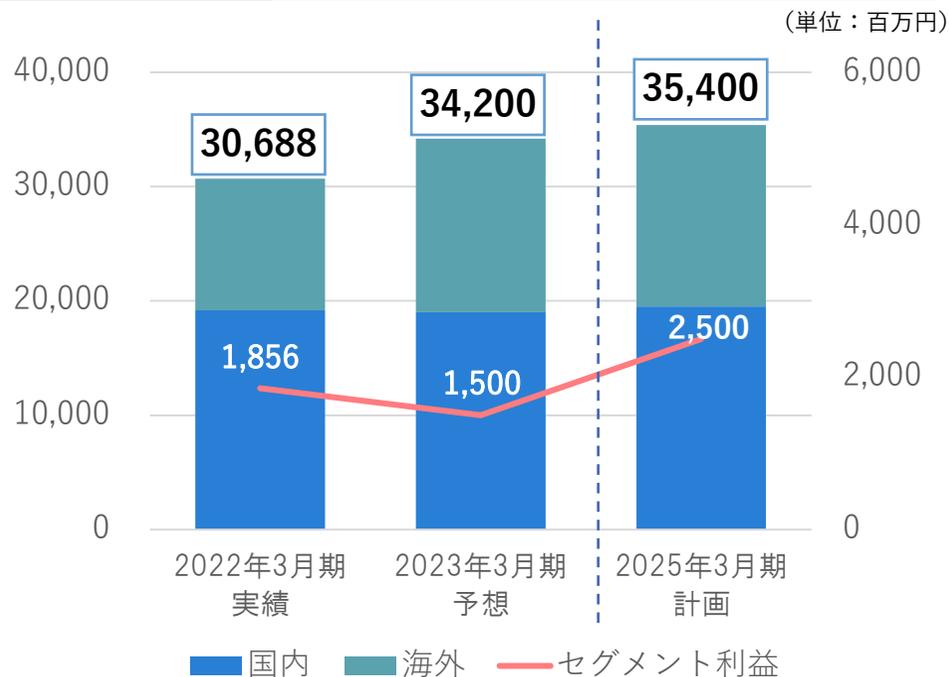
3,122百万円増収 (+23.8%)
510百万円減益 (▲50.7%)



- 国内では、エラストマーコンパウンドの拡販及び外食・中食需要の回復による小巻ラップの販売増加により、増収
- 海外では、ASEANの医療用塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- セグメント利益は、食品包材における原材料価格上昇分の製品価格への転嫁の遅れにより、減益

2023年3月期
通期予想

3,512百万円増収 (+11.4%)
356百万円減益 (▲19.2%)



- 国内では、エラストマーコンパウンドの拡販及び食品包材の外食・中食需要の回復により、増収
- 海外では、ASEANの医療用、生活・産業資材用塩ビコンパウンドの販売増加により、増収
- セグメント利益は、ASEANでの医療用コンパウンドの販売増加により上期対比下期利益は倍増するも、上期の結果を受けて減益

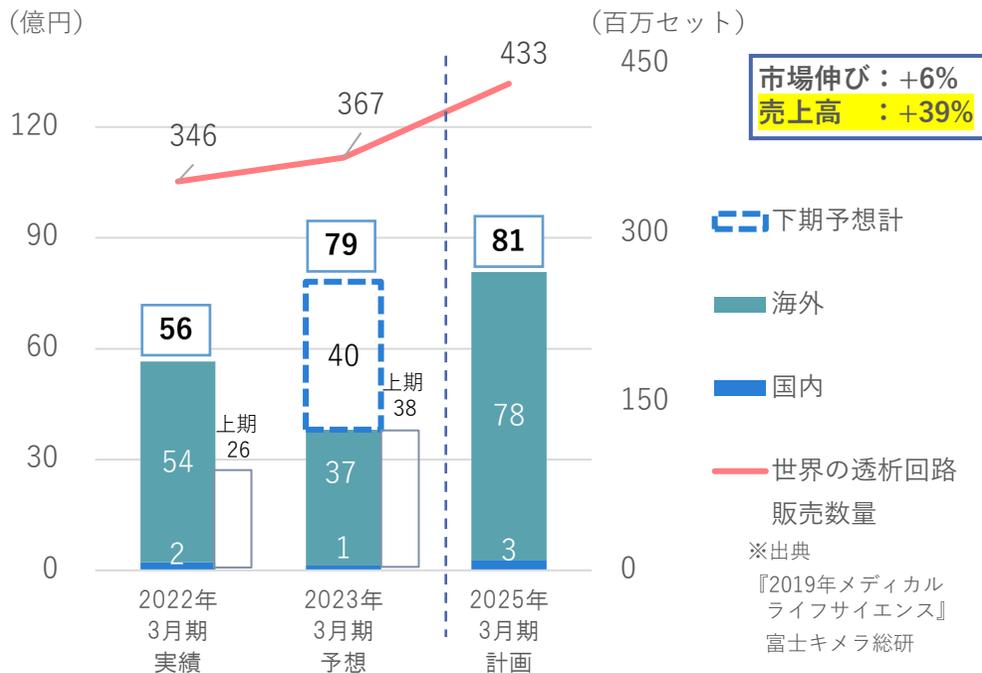
Daily Life & Healthcare



2.セグメント別概況

重点分野① 医療用(PVC)

世界の透析回路の販売数と当社医療用コンパウンド売上高



2023年3月期 上期実績

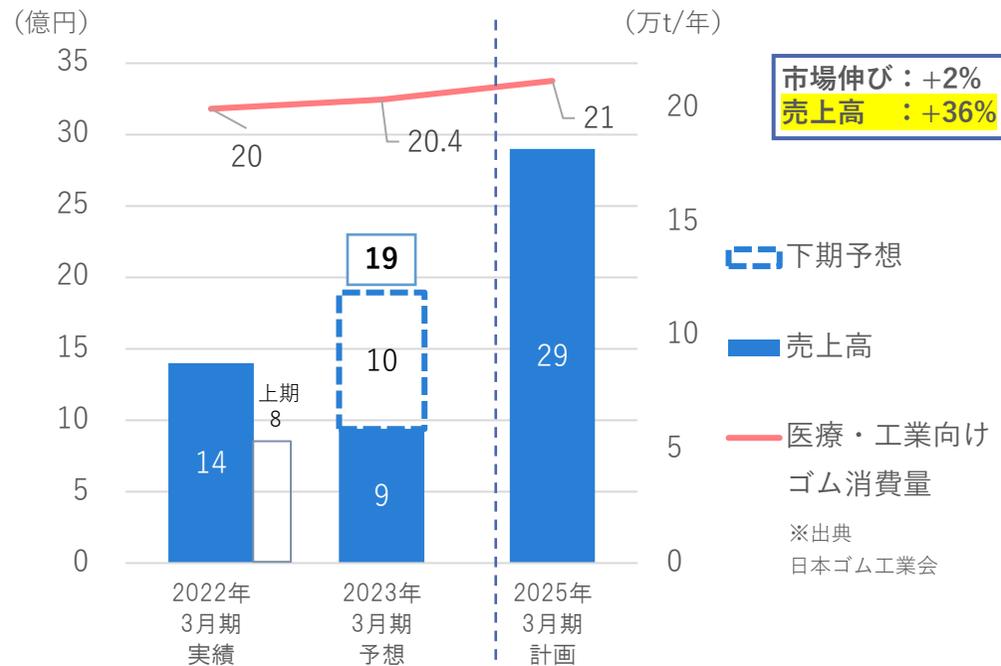
- ASEANでの日系顧客の需要増の取り込みと製品価格転嫁が進み、増収
- 非日系顧客の開拓 (輸入材⇒現地調達材料)

2023年3月期 下期施策

- ASEANにおける日系顧客への塩ビコンパウンド拡販及び新規非日系顧客の開拓

重点分野② ゴム代替

国内医療・工業関連ゴム消費量と当社ゴム代替コンパウンド売上高



2023年3月期 上期実績

- 国内では、医療・食品用エラストマーコンパウンド拡販により、増収
- 海外では、生活・産業資材用エラストマーコンパウンド拡販により、増収

2023年3月期 下期施策

- 国内では、食品、生活・資材用途への高機能コンパウンドの拡販
- 海外では、ASEANへのエラストマーコンパウンドの拡販

重点分野③ 環境素材

環境対応型ACS樹脂

- 高難燃・高耐候性・優れた電気特性を持つACS樹脂において、添加剤に使用する有機錫化合物の錫フリー化を実現
- グリーン調達に配慮した環境対応型ACS樹脂に進化



Natural RIKEBIO®

- 廃棄される天然資源を当社独自の配合加工技術でコンパウンド化
- 加工原料として使用し、再び製品化することで廃棄物の削減や省資源化に貢献
- 各顧客と取組みが進行中



独自の配合加工技術で
コンパウンド化



Electronics

エレクトロニクス



電力・産業電線



情報通信



光学フィルム

Electronics

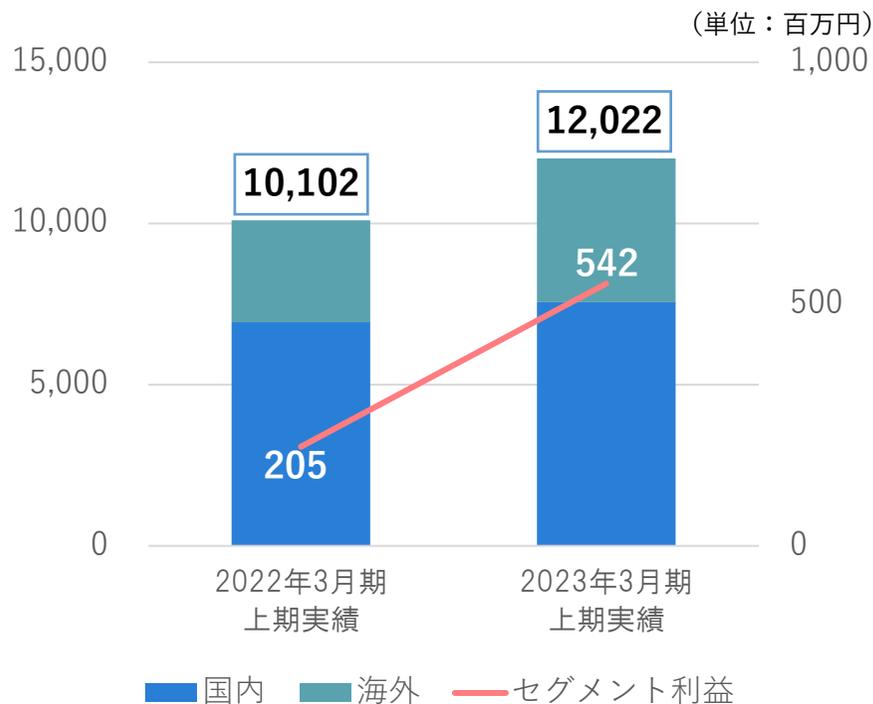


ELECTRONICS

| 2.セグメント別概況

2023年3月期
上期実績

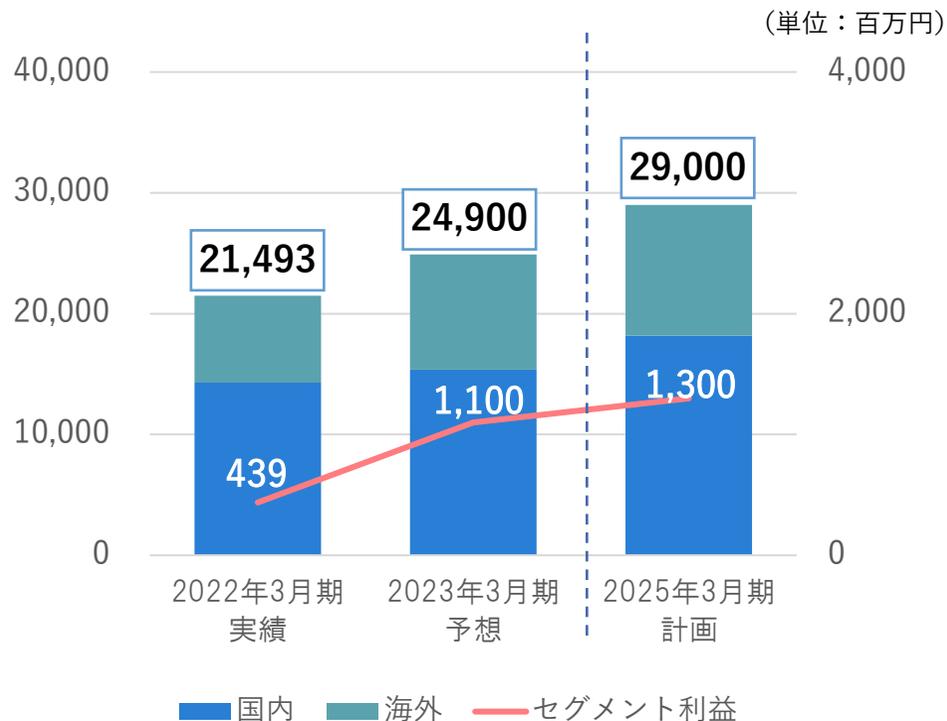
1,919百万円増収 (+19.0%)
336百万円増益 (+163.5%)



- 国内では、電力・産業電線、情報通信市場向け塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外では、ASEANを中心とした塩ビコンパウンドの販売増加及びASEAN・中国の車載用遮熱フィルムの拡販も進み、増収
- セグメント利益は、国内外での販売増加により、増益

2023年3月期
通期予想

3,407百万円増収 (+15.9%)
661百万円増益 (+150.6%)



- 国内では、電力・産業電線、情報通信の市況が弱含むも、上期の結果を受け、増収
- 海外は、塩ビコンパウンドの販売増加に加え、アジアを中心とした車載用遮熱フィルムの拡販を行い増収の見込み
- セグメント利益は、国内外での販売増加により、増益

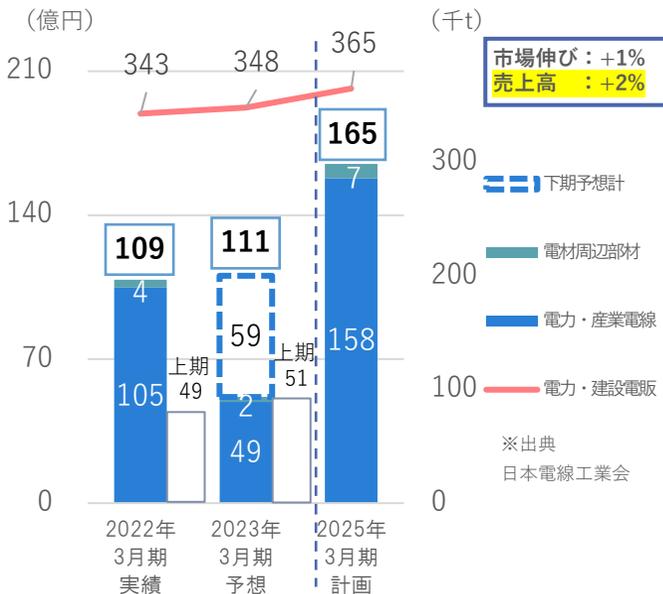
Electronics



| 2.セグメント別概況

重点分野① 電力・産業電線

国内の電力・建設電販市場と当社コンパウンド売上高



2023年3月期 上期実績

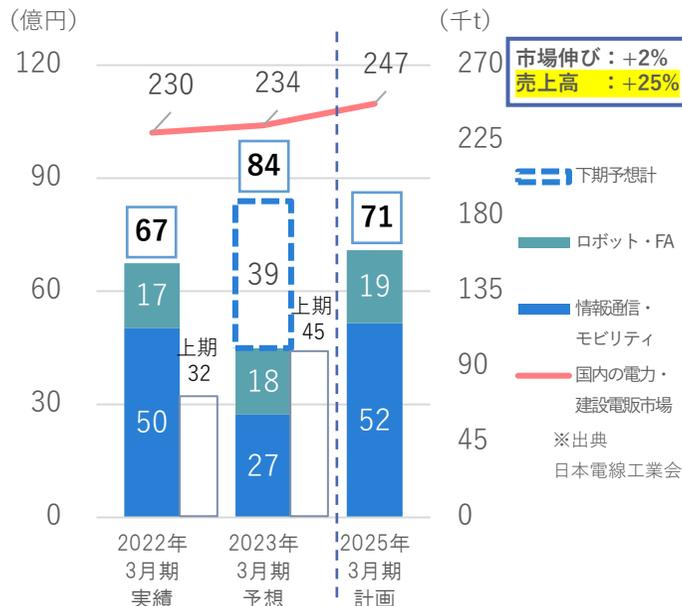
- 国内では、電力・建設電販分野で市場シェア拡大
- 海外では、タイで獲得した商権の拡がりからASEAN電力・建設電販電線で拡販
- ACS錫フリー処方を確立し、国内・ASEAN市場でマーケティング開始

2023年3月期 下期施策

- 国内は電力・建設電販分野での拡販
- 海外はASEAN電力・建設電販向け材料の拡販

重点分野② 情報通信

国内の情報通信市場と当社コンパウンド売上高



2023年3月期 上期実績

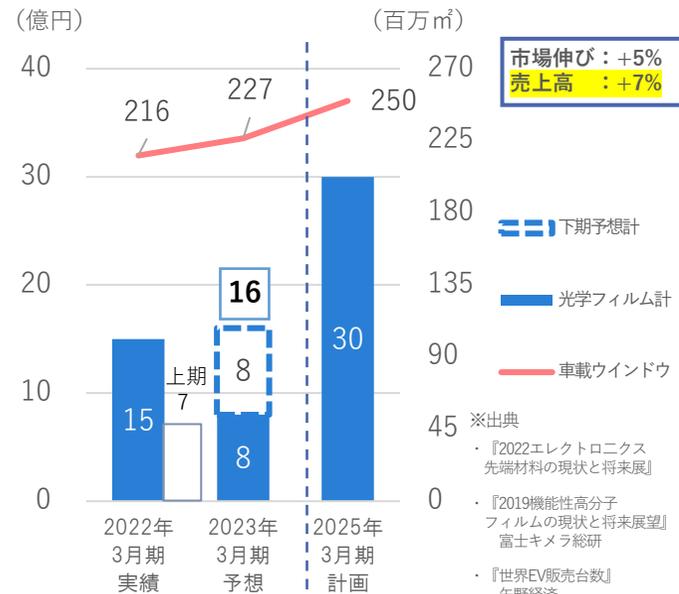
- 北米・欧州市場向けEV充電ケーブル材販売開始
- EV車用FFC販売開始
- 国内ロボット・FA向けの販売伸長により3ヵ年最終年度計画を初年度で達成

2023年3月期 下期施策

- 車載用高機能フィルム・同軸ケーブル、通信設備向けフィルムの用途開発

重点分野③ 光学フィルム

光学フィルム市場と当社光学用フィルム売上高



2023年3月期 上期実績

- 車載遮熱フィルムはASEAN、中国を中心に新規自動車メーカーによる採用が進み、昨年比販売倍増
- 半導体用フィルムは世界的モバイル不況で減収

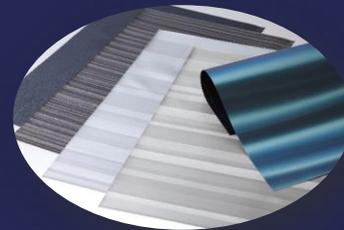
2023年3月期 下期施策

- 樹脂ウィンドウは、自動車用途以外に展開すべく、建材・家電市場等へ拡販
- 車載遮熱フィルムは中東・アフリカへ販路拡大



Building & Construction

ビルディング&コンストラクション



建装用フィルム



住宅・建築資材

Building & Construction

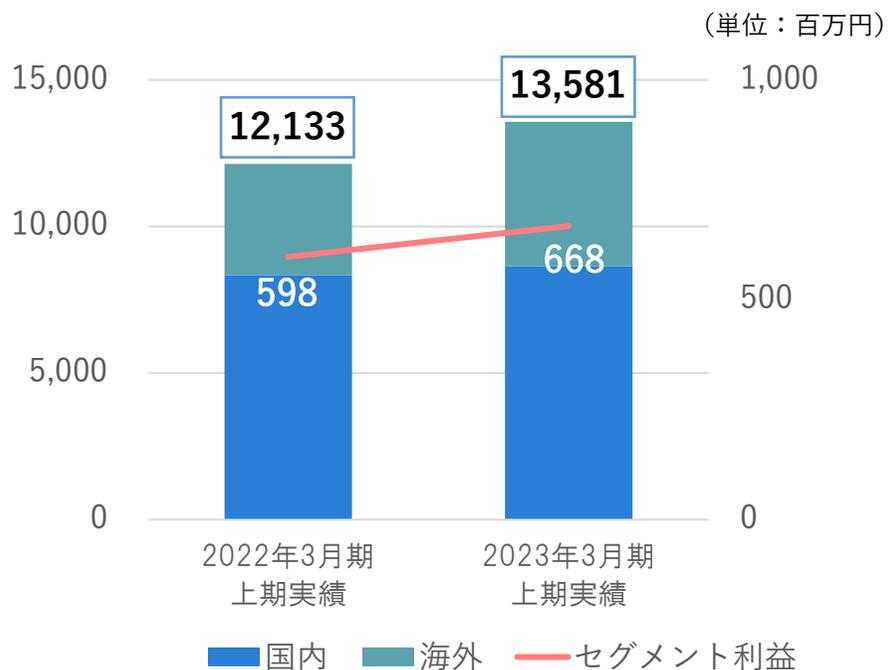


BUILDING
& CONSTRUCTION

| 2.セグメント別概況

2023年3月期
上期実績

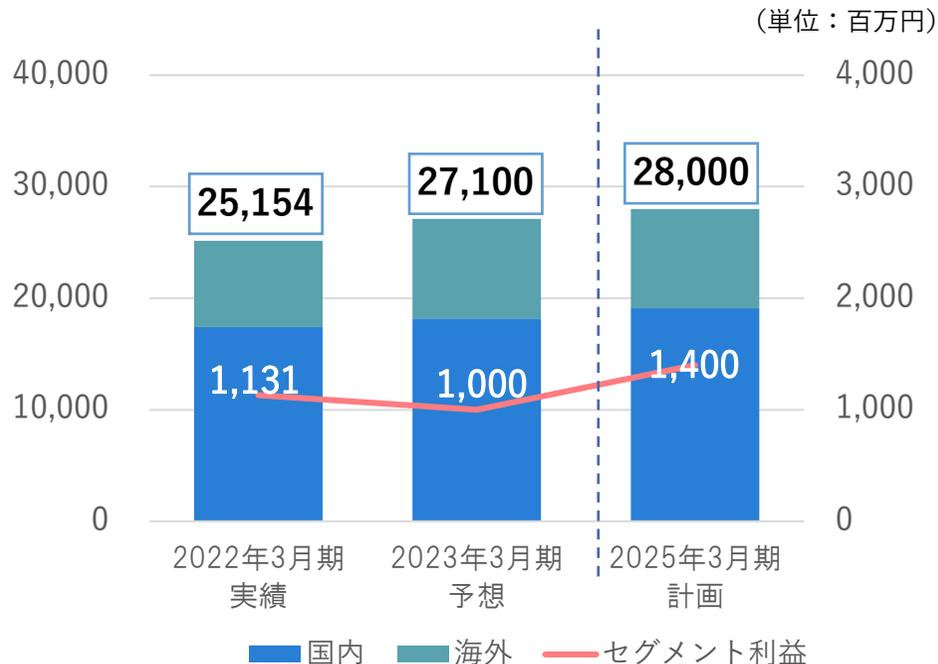
1,447百万円増収 (+11.9%)
69百万円増益 (+11.6%)



- 国内では、住宅市場が低調に推移する中フィルムの販売が減少するも、ZEH政策による樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が進み、増収
- 海外では、ASEAN・米国での塩ビコンパウンドの販売増加及び北米のフィルム販売が増加し、増収
- セグメント利益は、国内外でのコンパウンドの販売増加により、増益

2023年3月期
通期予想

1,946百万円増収 (+7.7%)
131百万円減益 (▲11.6%)



- 国内では、ZEH政策により樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- 海外ではASEANでの塩ビコンパウンドの販売が増加し、増収
- セグメント利益は、米国経済減速に伴う数量減により減益

Building & Construction

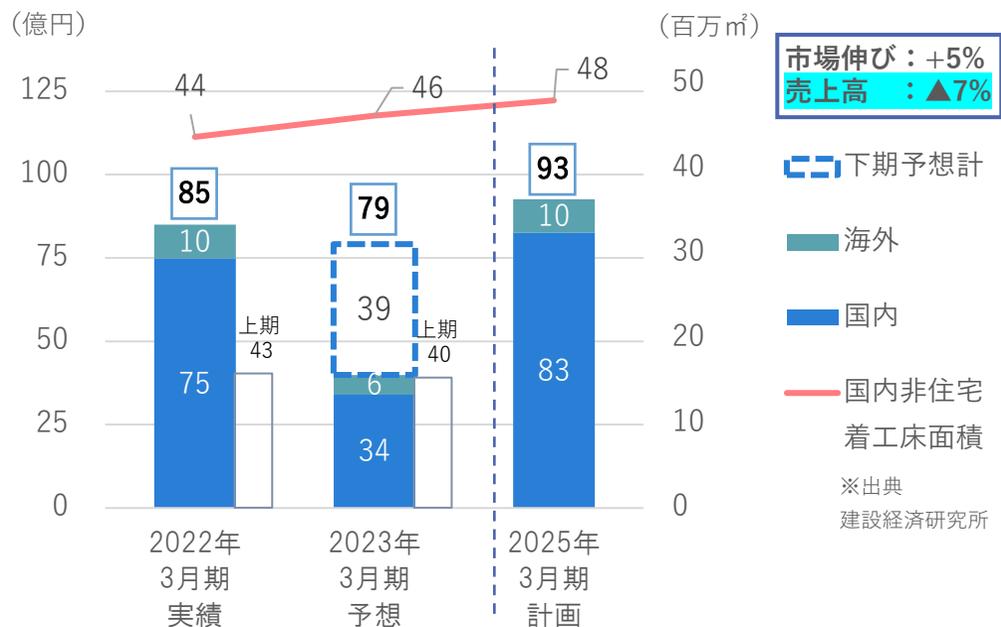


BUILDING
& CONSTRUCTION

| 2.セグメント別概況

重点分野① 建装用フィルム

国内非住宅着工床面積と当社建装用フィルム売上高



2023年3月期 上期実績

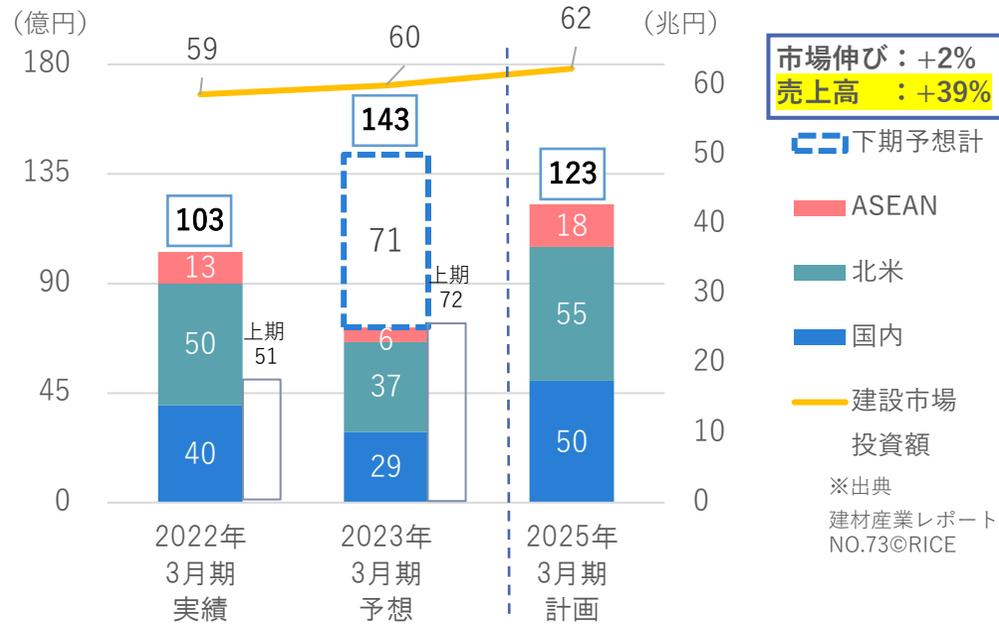
- 国内では、非住宅市場での意匠開発が進展するも、低調に推移した住宅市場の影響を受け、減収
- 海外では、北米におけるフィルム販売増加に加え、メラミン化粧板とのマッチング案件が実績化

2023年3月期 下期施策

- 好調な非住宅市場において、商業・店舗向け製品を中心に拡販

重点分野② 住宅・建築資材

建設市場投資額と当社住宅・建築資材向けコンパウンド売上高



2023年3月期 上期実績

- 国内では、ZEH政策により樹脂サッシ用塩ビコンパウンドの販売が増加し増収
- 海外では、ASEAN、米国での塩ビコンパウンドの製品価格転嫁も進み、増収

2023年3月期 下期施策

- 国内では、ZEH政策による樹脂サッシ需要の取込み及びエラストマーコンパウンドの拡販
- ASEANでの塩ビコンパウンドの拡販



3. 中長期的取り組み

決算概要

セグメント別概況

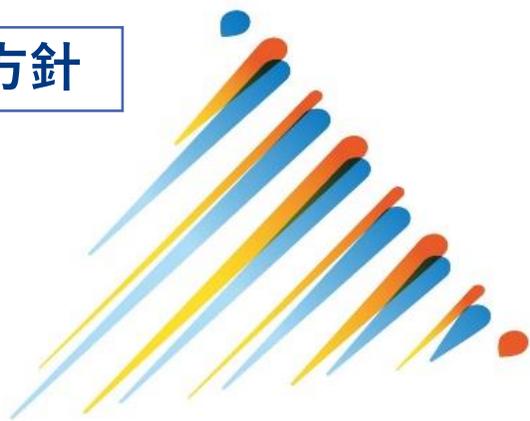
中長期的取り組み

3カ年中期経営計画

3.中長期的取り組み

(単位：億円)

経営方針



**Challenge Now
for Change New 2024**
変革への挑戦

すべての生活空間に快適さを提供するリーディングカンパニーを目指して

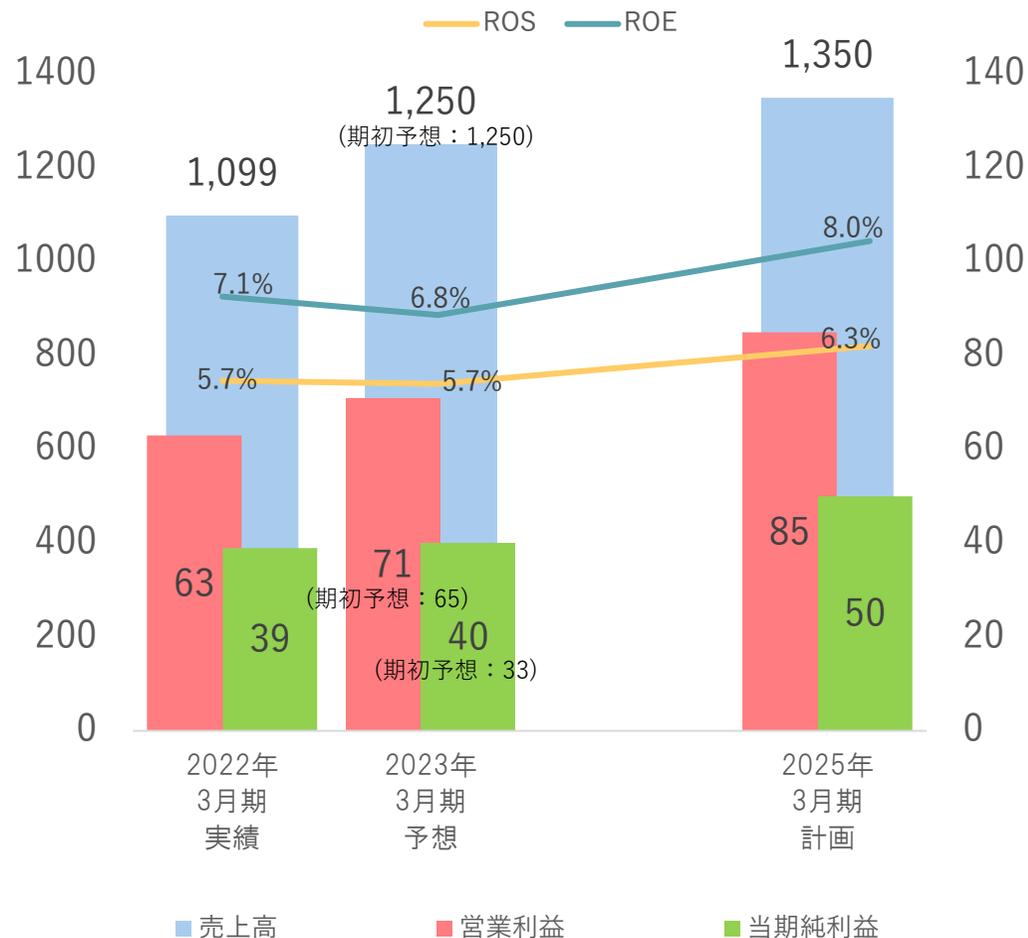
4つの戦略

グローバル経営の深化とシナジー

顧客の期待の先を行く

新規事業／新製品への挑戦

環境／社会課題解決への貢献



前提条件
2025年3月期計画 ナフサ価格：61千円 為替：114円/USD

戦略①グローバル経営の深化とシナジー

- ASEANでの医療用コンパウンド拡販
- タイ国でのPVCコンパウンド事業獲得後のローカル非日系企業とのビジネス拡大
- Ice- μ の商権を獲得後、中東・アフリカ等へ商圏拡大
- グローバル生産体制増強（タイ、ベトナム、北米）
- 海外売上高比率：51.6%

戦略②顧客の期待の先を行く

- マテリアルズインフォマティックスの導入による、最適配合確立のスピードアップ
- DR（デザインレビュー）運用の定着による品質管理体制の強化
- フィルムビジネスユニットの創設によるフィルム顧客への対応力向上

戦略③新規事業／新製品への挑戦

- 新規事業開発準備室の設置
- 研究開発体制の充実（コンパウンド開発とフィルム開発の融合による配合技術の強化）
- 開発スピードの更なる向上を目的とした新規フィルム試作機の導入

戦略④環境／社会課題解決への貢献

- サステナビリティ委員会の設置、運営開始
- TCFD提言に基づく気候変動関連情報の開示
- 環境対応製品の開発・拡販
 - ▷ 「RIKEBIO®リケビオ」の上市
 - ▷ 「ゴム代替」エラストマーの採用拡大
- 女性総合職キャリア開発研修実施
- 社会貢献活動（被災地支援、防災アイテム寄贈等）の実施

投資（計数計画）

| 3.中長期的取り組み

設備投資/システム投資

3カ年中期経営計画：195億円

(単位：億円)

	主要案件	総額			期初計画	減価償却
		国内	海外			
2023年3月期 (予測)	ASEANにおける設備増設 国内設備増強 国内外設備メンテナンス	50	35	15	48	33
2024年3月期 (予測)	ASEANにおける設備増設 米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内カーボンニュートラル対応 国内外設備メンテナンス 国内システム投資	85	49	36	77	38
2025年3月期 (予測)	米国における設備増設 国内設備増設・増強 国内カーボンニュートラル対応 国内外設備メンテナンス 海外の品質管理システム投資	60	44	16	70	38
合計		195	128	67	195	109

- ✓ 初年度は期初計画を上回る見込み。ASEANを中心に設備投資を実施
- ✓ 来年度以降、CO₂削減のための設備投資を実施予定



RIKEN (THAILAND) CO., LTD. における生産設備増設



《進捗》

- ✓ 第4倉庫、建設完了（～2022.7）
- ✓ 第6工場（今回増設分）建屋着工（2022.5～）
- ✓ 2023年2月 建屋完成、6月頃 新規ライン稼働開始予定
- ✓ 投資金額：約15億円



RIKEN VIETNAM CO., LTD. における生産設備増設



《進捗》

- ✓ 許認可に時間を要し、当初計画から1年程度後倒しになる見込み
- ✓ 現時点では2024年8月稼働開始に向けて対応中
- ✓ 投資金額：約15億円



RIKEN ELASTOMERS CORPORATION における生産設備増設



《進捗》

- ✓ 2022年10月増設決定
- ✓ 2024年12月に稼働開始予定
- ✓ 投資金額：約15億円

研究開発体制の充実

コンパウンドとフィルム開発を融合し、高付加価値製品を創出

コンパウンドの配合・混練技術

フィルムの製膜・加工技術

研究体制の充実

- ✓ コンパウンドから製膜へ、一貫した研究体制の構築による付加価値向上
- ✓ 開発スピードの向上
- ✓ 充実した研究設備の活用による設計の高度化

- ・ 研究開発センター増築
- ・ 研究人員の増強
- ・ オープンイノベーションの実践
- ・ 実機に近い試作機の導入
- ・ 基盤技術の強化
- ・ マテリアルズインフォマティクスの導入

約20億円の投資

知財戦略

自社開発による知財創出

- 研究開発センター再構築による強みの強化
- 特許出願を促す仕組み 運用開始

知財情報の活用

事業情報に知財情報を取込んだ分析を実施

IPランドスケープの実践

リケンテクノスグループの中長期CO₂排出量の削減目標

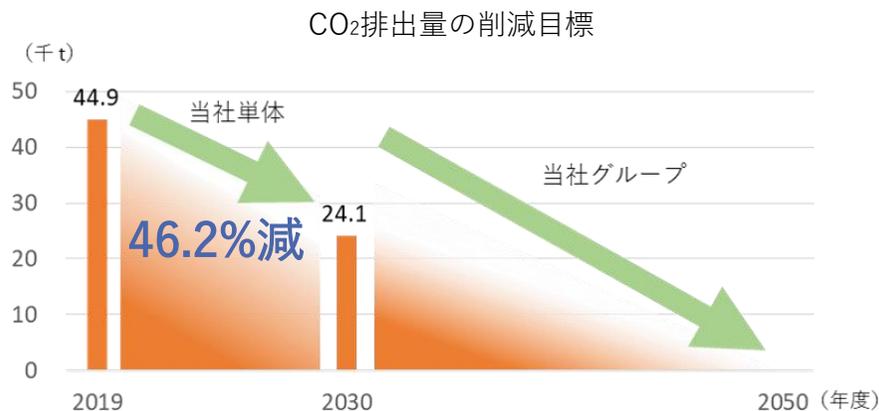
2030年の目標値(当社単体でのScope1,2)

2019年度比 **46.2%減** (24,139 t)

※2019年度 基準値44,868 t

2050年の目標値(リケンテクノスグループ)

カーボンニュートラルの達成



リケンテクノスグループの中長期CO₂排出量の削減に向けた今後の取り組み

- 生産拠点の設備改修（空調、生産機等）
- 重油ボイラーから天然ガスボイラーへの変更
- エネルギーロードマップの作成
- 再生可能エネルギーの導入拡大
- RIKEBIO[®] シリーズの拡充、拡販
- Scope3開示範囲の拡大



人的資本

多様な人材が活躍できる企業風土醸成/仕組みづくり

- ▶ グローバル人材育成研修制度構築、外国人採用強化
- ▶ 経験者採用強化(リファラル採用等)、社員教育見直し/育成強化
- ▶ キャリア開発研修(女性社員向け等)、多様性浸透のための意識改革

管理職における比率	(2022年3月末)	(2022年9月末)	(2025年3月末目標)
● 女性	2.0%	1.9%	7.0%
● 外国人	0.7%	1.3%	3.0%
● 中途採用	30.5%	31.0%	40.0%

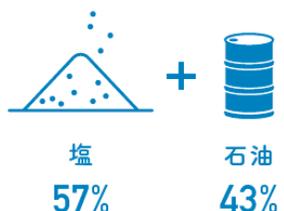
ガバナンス強化

- サステナビリティ委員会の設置/運営開始(2022年4月)
 - ▶ 気候関連財務情報[TCFD]開示(2022年6月)、今後の開示拡充
- 女性取締役選任、社外取締役1名増員(2022年6月)
 - ▶ 取締役のトレーニング見直し(工場/研究所での取締役会開催等)
- 子会社ガバナンス/リスクマネジメントの強化
 - ▶ リスク発生時の対応強化、リスクマネジメントプロセス見直し

従来事業における「リサイクル・省資源・省エネルギー」に貢献する取り組み

• 環境に優しい塩化ビニル樹脂

塩化ビニルの原料



塩ビの樹脂製内窓用サッシ
粉碎し、バージン材料と混ぜて
もう一度成形材料としてリサイクル

塩ビの約6割は天然素材の「塩」に由来

耐久性・加工性・難燃性・耐候性など用途に応じた
機能の付与が可能

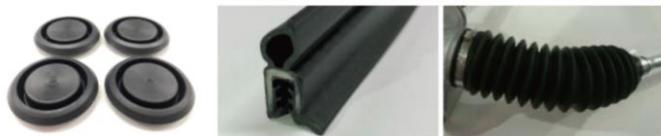
• ゴム代替素材として有用なエラストマー

EPDM（エチレンプロピレンゴム）代替

オレフィン系TPV ACTYMER® G

耐油性ゴムと同等の性能を有する

高耐油TPV ACTYMER® K



「ゴム特性」を有しながら 「良好な成形加工性」を併せ持つ素材

従来ゴムと比較して、成形時のCO₂排出量が少なく、
かつ軽量なため、自動車の軽量化・燃費向上等の
省エネルギーに貢献

株主還元 — 配当金 —

| 3.中長期的取り組み

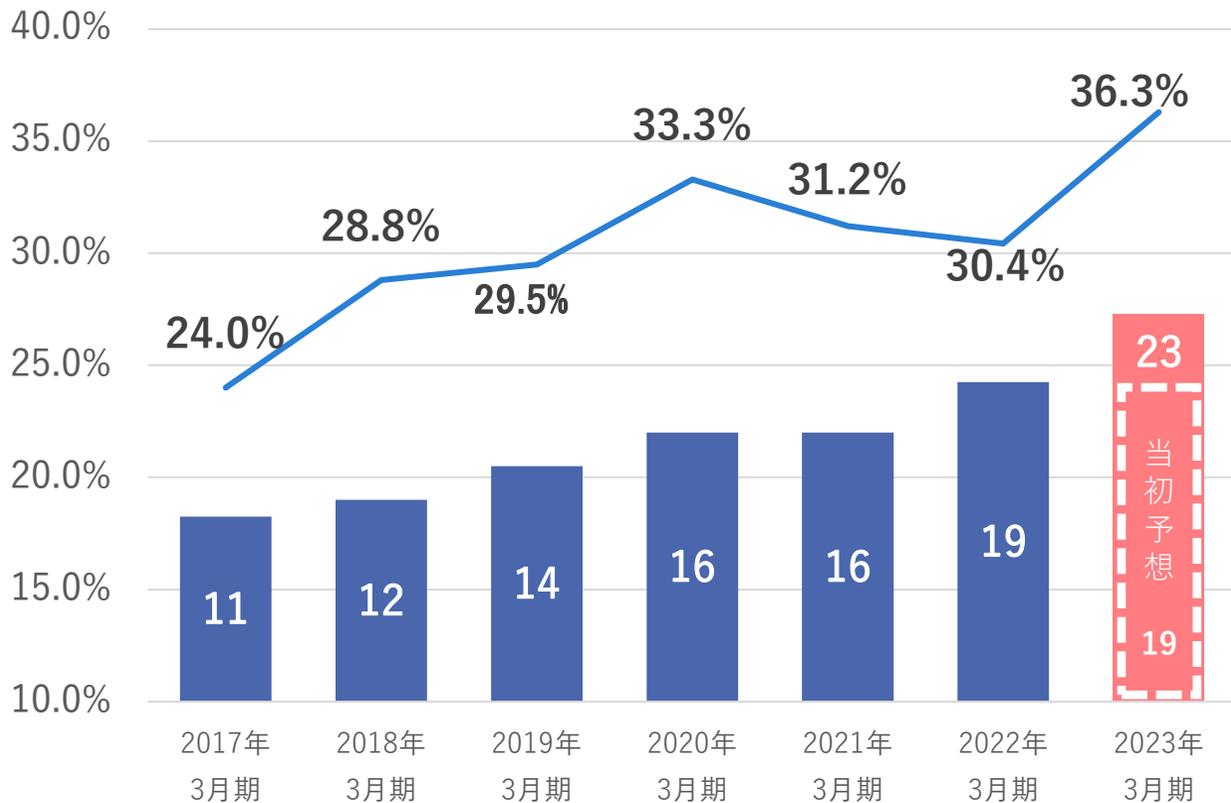
配当方針

・ 連結配当性向**30% ⇒ 35%**に変更

年間配当予想

・ 前期**19円 ⇒ 23円**に**4円**の増配（期初予想比4円の上方修正）

配当性向と配当額推移



配当方針

連結配当性向35%程度を一つの目途とした上で、今後の事業投資・自己資本の充実等も勘案し、安定的な配当を行う

当期配当

当初
中間：9円、期末：10円、
年間配当予想19円
↓
中間：9円、期末：14円、
年間配当予想23円

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

お問い合わせ先

webmaster@rikentechnos.co.jp

経営企画部/経理部



RIKEN TECHNOS

会社概要



社名	リケンテクノス株式会社
設立年月日	1951年（昭和26年）3月30日
資本金	85億14百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 常盤和明
従業員数	連結1,919名 単体792名（2022年9月30日現在）
本社所在地	〒101-8336 東京都千代田区神田淡路町 二丁目101番地 ワテラスタワー



グローバルネットワーク



- 製造会社
- 販売会社

● リケンテクノス株式会社

● 国内子会社

- リケンケーブルテクノロジー株式会社
- リケンケミカルプロダクツ株式会社
- 株式会社協栄樹脂製作所
- リケンテクノスインターナショナル株式会社
- 株式会社アイエムアイ

